

# ごあいさつ



理事長 **岡部 憲昭**

皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃から遠賀信用金庫に対し格別のご愛顧、お引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

今年も、地域社会に貢献する遠賀信用金庫の取組みをご紹介するディスクロージャー誌『ONSHIN REPORT 2023』が出来上がりました。わかり易い説明となるよう心掛けて作成いたしましたので、ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、我が国経済は、新型コロナウイルス感染症への対応と経済活動の両立が進み、観光地では外国人を含む旅行客を多く見かけるようになり、街の賑わいも相当程度戻ってまいりました。一方で、資源高による物価の上昇、地政学的リスクの高まりなど、先行きの不透明感が強まっており、当地域におきましても、中小企業の皆さまや住民の皆さまへの影響が懸念されます。当金庫は引き続きお客さまのご支援を最優先課題として全力で取り組んでおります。

昨年度の取組みを振り返ってみますと、SDGsの一環として子ども食堂支援に取り組み、フードドライブによる食料品支援に加え、「こども食堂応援定期預金」を発売し、預金総額の一定割合に相当する金額を寄付しました。また、「おんしん講演会」や3年振りとなる「ふれあい旅行」の開催、トルコ・シリア地震被災者への寄付活動など各方面に活動の幅を広げております。さらには、当金庫が実行委員を務める「よい仕事おこしフェア実行委員会」と岡垣町との包括連携協定を締結し、地域の活性化にも取り組みました。大学との連携による企業支援も徐々に成果を見せています。

なお、本年4月に、急速な経済発展を続ける福岡都市圏でのさらなる営業力の強化を図るために、福岡営業本部を設置いたしました。これにより、これまで以上にお客さまへの迅速かつきめ細かな対応が可能になるものと考えております。

令和4年度の決算につきましては、資源価格の上昇やコロナ禍からの経済の回復などに伴い、世界的にインフレ圧力が高まって欧米では金融引き締めを進展させる中、金融業界は、市場環境の急速な変化により各種リスクが顕在化するなど、厳しい経営環境が続きましたが、当金庫は前年度を上回る791百万円の当期利益を確保することができました。金融機関の健全性を示す自己資本比率も15.56%と、国が定める基準(4%)を大きく上回っております。

また、令和5年度を初年度とする中期経営計画「おんしん5年後の姿2028 ～原点回帰と変革～」をスタートさせました。5年後の姿「すべての職員が、経営理念の実践により、地域の為に働いていると日々実感できる金融機関」を目指し、「人材の活躍と成長」を中核とする「地域貢献」、「変革への挑戦」、「経営基盤の強化」の4つの戦略を遂行することとしています。DX化やGX化等の求められる変革に果敢に挑戦し、おんしんの原点である「経営理念」(地域の中小企業の発展、地域住民の生活の向上、地域社会の繁栄に寄与)の実践に全力で取り組んでまいります。

遠賀信用金庫は、役職員が一丸となって「スモール イズ ナイス」の矜持を胸に、地域の皆さまの期待に応え、地域の発展のため邁進してまいります。

今後とも、遠賀信用金庫に対しまして格別のご厚情を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。

令和5年7月